

2022年3月期EV・ESR説明会

2022年5月25日

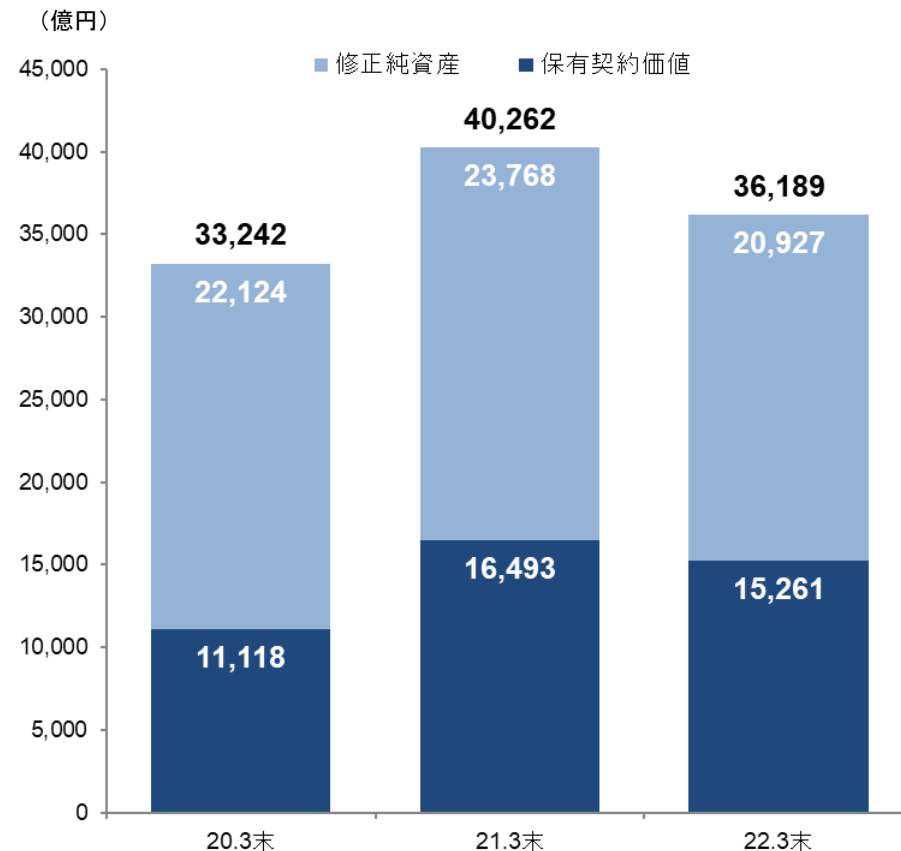


EVの状況

EV

		(億円)		
		21.3末	22.3末	増減額 (前期末比)
EV		40,262	36,189	△4,072 (△10.1%)
	修正純資産	23,768	20,927	△2,840 (△12.0%)
	保有契約価値	16,493	15,261	△1,231 (△7.5%)

EVの推移



新契約価値

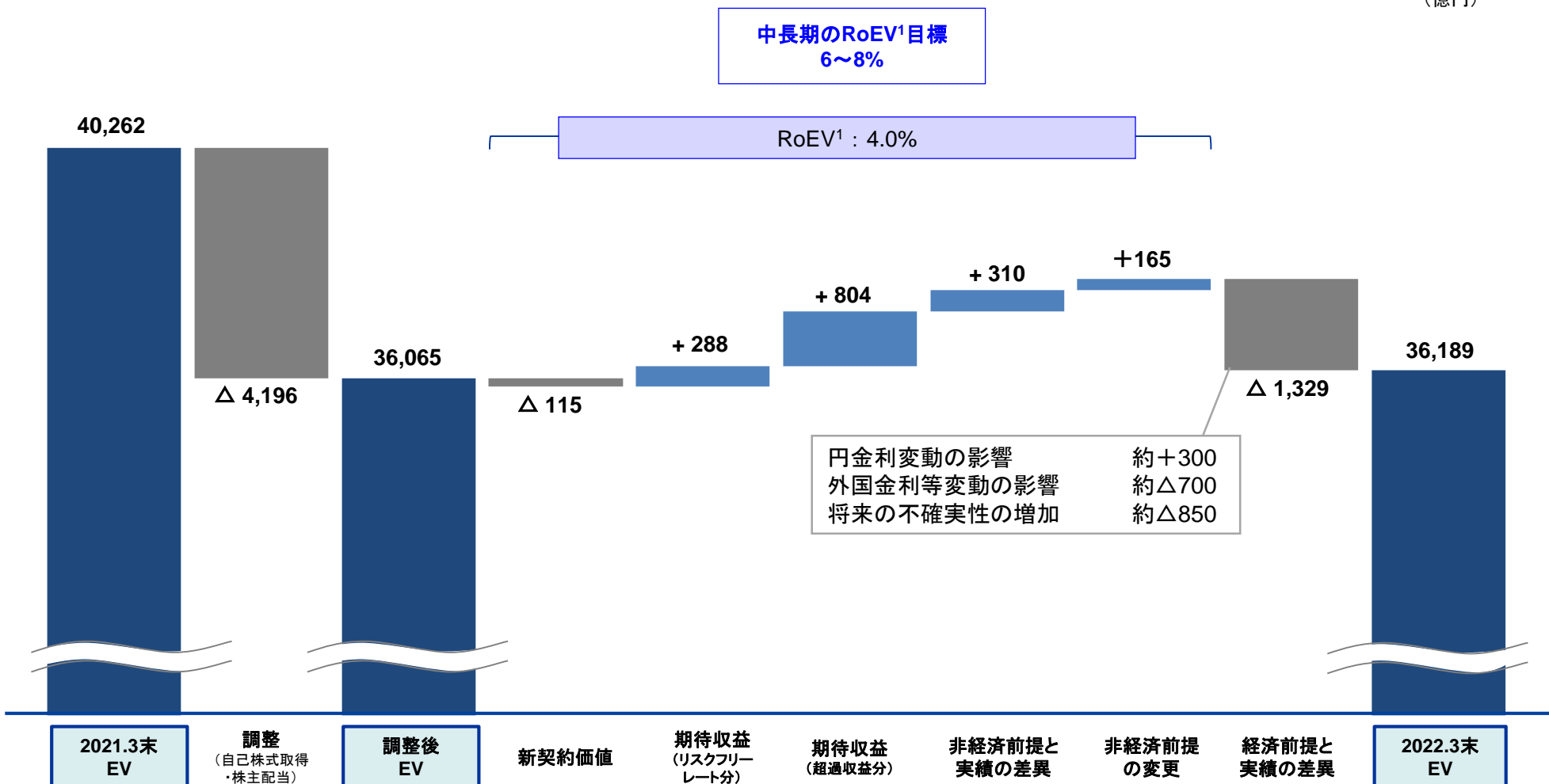
22.3期の新契約価値¹ △ 115億円
 新契約マージン^{1,2} △ 3.2%

- 新契約獲得にはその多寡によらない一定の事業費等が必要となるため、新契約価値はマイナスになっている

1. 2021年4月から2022年3月までの新契約をベースに2021年12月末の経済前提を使用。条件付解約および転換による価値の増減分を含む
 2. 新契約価値を将来の保険料収入の現在価値で除したもの

EVの変動要因

(億円)



1. EVの変動要因から「経済前提と実績の差異」を除いた値

EVの感応度分析

経済前提に関する感応度

前提条件	EV	増減額 (増減率)
リスク・フリー・レート50bp上昇	35,718	△ 471 (△ 1.3%)
外国金利のリスク・フリー・レート50bp上昇 ¹	35,302	△ 887 (△ 2.5%)
リスク・フリー・レート50bp低下	36,206	+ 17 (+0.0%)
リスク・フリー・レート50bp低下 (低下後の下限なし)	36,044	△ 144 (△ 0.4%)
株式・不動産価値30%下落 ¹	31,619	△ 4,570 (△ 12.6%)

(億円)

修正純資産	保有契約価値
19,945	15,772
20,848	14,453
21,541	14,664
21,988	14,055
20,750	10,868

非経済前提に関する感応度

前提条件	EV	増減額 (増減率)
将来の保有契約量が2022.3EVの計算上で想定している水準の1.05倍 ¹	36,734	+ 545 (+ 1.5%)
事業費率(維持費)10%減少	38,171	+ 1,981 (+ 5.5%)

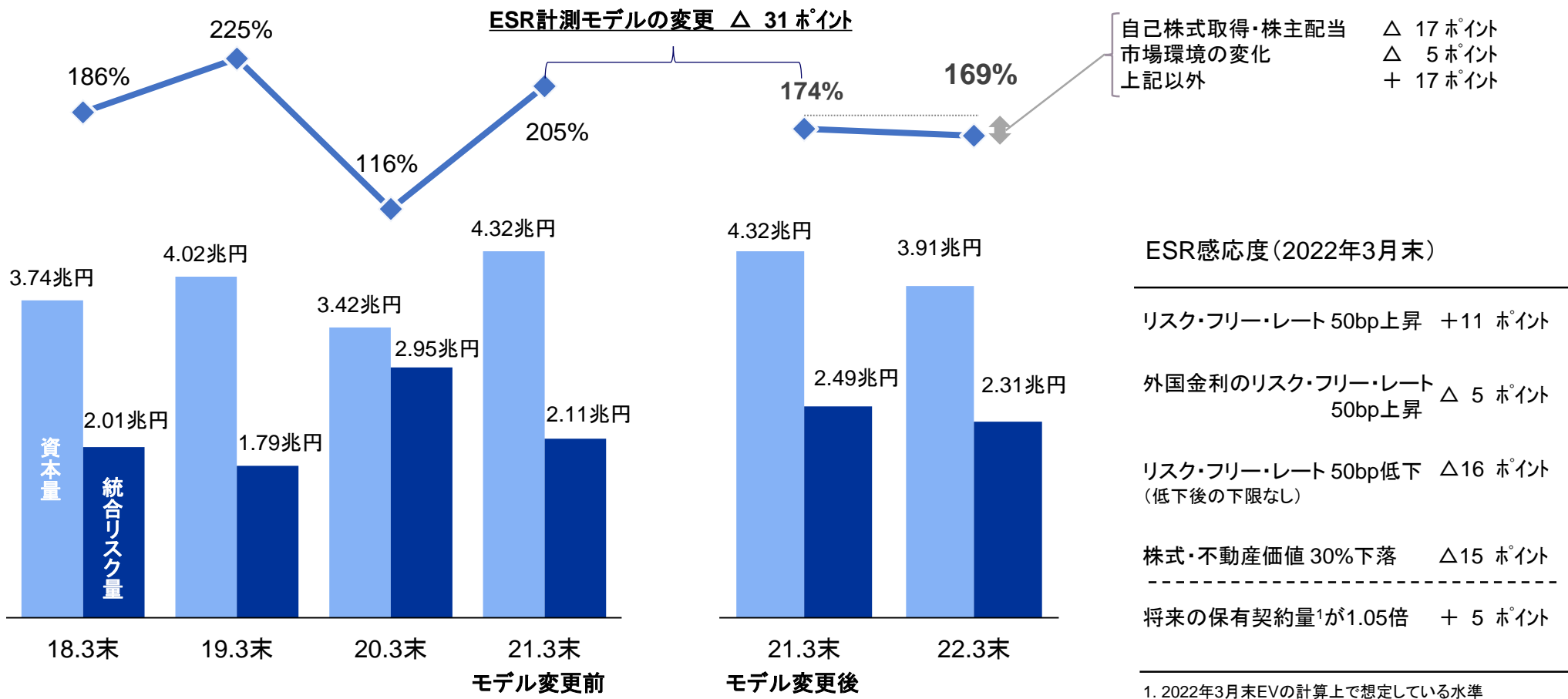
(億円)

修正純資産	保有契約価値
20,927	15,807
20,927	17,243

1. 第三者の検証を受けていない試算値

ESRの状況

- 新資本規制導入を見据え、2022年3月末からESR計測モデルを一部変更した。この変更によりESRは31ポイント低下したものの、2022年3月末のESRは169%。
- 前年度末と比較すると、自己株式の取得と市場環境の変化の影響により、ESRは5ポイント低下した。
- 引き続き、金利リスク量のコントロールなどによりESRの中長期的な安定を目指す。



注: ESRの分子である資本量(モデル変更後)は、下記①と②を合計したものの。

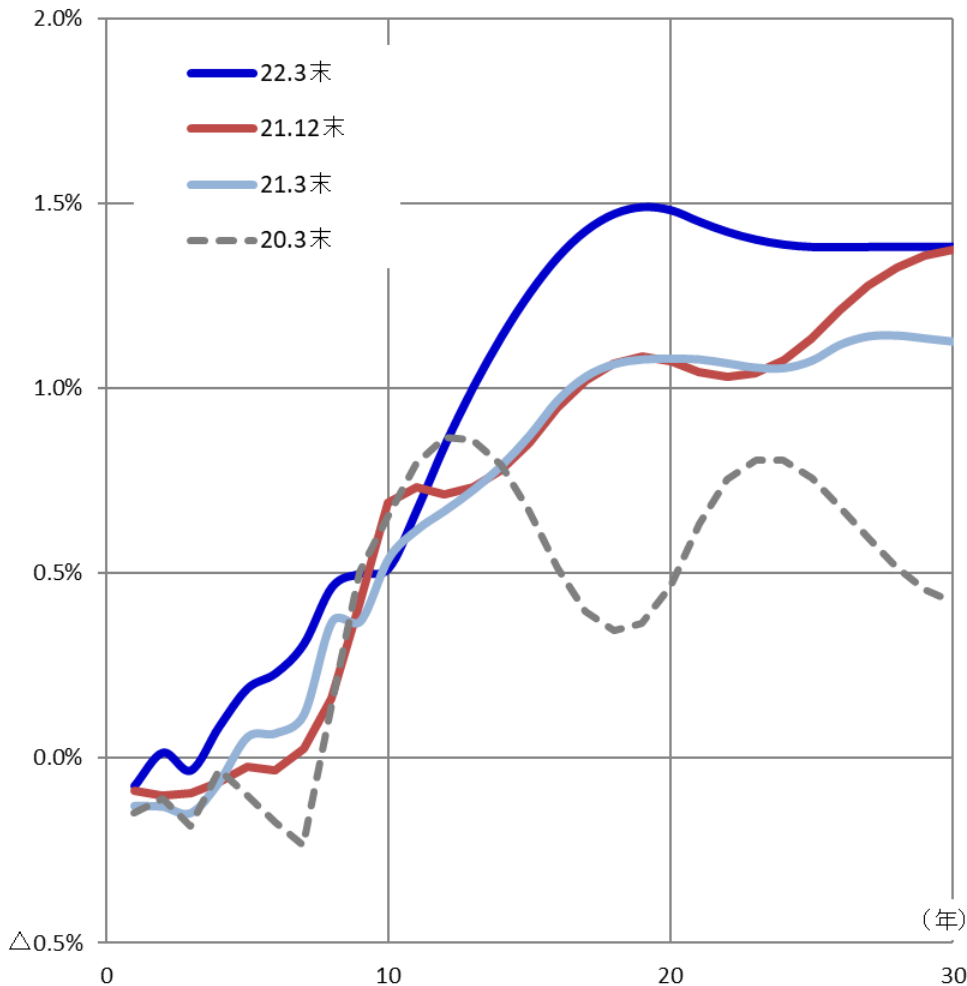
①EVから必要資本を維持するための費用を除いたもの ②当社が発行した劣後社債の額

ESRの分母である統合リスク量は、資本量の変動をリスクと捉え、内部モデル(保有期間1年、信頼水準99.5%)を用いて算出。

1. 2022年3月末EVの計算上で想定している水準

(参考) 金利 (EVの前提条件) ¹の変動

フォワード・レート (20.3-22.3)



1. 金利 (EVの前提条件) は、財務省公表の国債の流通利回りを基に作成したフォワード・レートを使用

フォワード・レートの推移

	20.3末	21.3末 ^①	21.12末 ^②	22.3末 ^③
10年	0.657 %	0.539 %	0.688 %	0.513 %
20年	0.466 %	1.080 %	1.074 %	1.480 %
30年	0.422 %	1.126 %	1.374 %	1.382 %

注: EVおよび新契約価値の計算に用いた経済前提は以下のとおり
 2021年3月末EV : ①
 2022年3月期の新契約価値 : ②
 2022年3月末EV : ③